

令和4年度
夏油高原スキー場運営評価委員会
報告書

令和5年4月
夏油高原スキー場運営評価委員会

目 次

1	委員長あいさつ	1
2	評価について	2
3	評価結果について	4
	■ 1. 運営状況	4
	■ 2. 財務状況	6
	■ 3. 夏油高原スキー場運営9年目の振り返り	7
	■ 4. 夏油高原スキー場の今後の展望について	8
	■ 5. その他意見	9
	■ 6. 総括意見	9
	資料編	10
	北上市夏油高原スキー場運営評価委員会要綱	11
	北上市夏油高原スキー場運営評価委員会 委員名簿	12
	夏油高原スキー場 これまでの経緯	13

1 委員長あいさつ

夏油高原スキー場運営評価委員会

委員長 三 堀 裕 雄

令和4年度の北上市夏油高原スキー場運営評価結果の報告にあたり、代表してご挨拶を申し上げます。

北上市夏油高原スキー場運営評価委員会は、専門家による第三者的な視点から運営事業者の運営状況等について厳正かつ公正な評価を行うとともに、スキー場運営全般に対する意見を付する場として、平成26年に設置され、今年で10年目となります。

今年度は夏油高原スキー場において公設民営方式による運営の9シーズン目の運営及び財務状況について評価を行うとともに、運営9年目の振り返りと今後の展望について議論を行いました。財務及び運営状況は、チェック項目に○、△、×による評価をしたうえで、総合的に（A）適切、（B）おおむね適切、（C）一部見直し、（D）要改善（抜本見直し）の評価を行いました。また、運営9年目の振り返りと今後の展望については、運営事業者及び市の意見を踏まえ、各委員から提言をいただきました。

評価の結果ですが、運営状況については、新型コロナウイルスの影響もあり入込や売上は当初計画の水準に達していない状況ですが、社会情勢の変化に対応しながら継続してきた取り組みが成果につながっており、比較的安定した運営を行っていると言えます。しかしながら、施設の維持管理に関しては、今後課題として取り組むべき点は多く、総合評価は「B：概ね適切」としました。

なお、財務状況については、純利益はあるものの、借入れ等の状況を勘案すると良好とまでは言えない状況にあります。今後の事業計画を推進していくためには、より具体的に損益計画を作成する必要があることなどから、総合評価は「C：一部見直し」としました。

スキー場運営の9年目の振り返りについては、9年間の積み重ねにより事業の基盤が固まってきたと言えます。インバウンドの取り込みや、関連会社との連携によるグリーンシーズンの活性化等、柱となる事業については継続し、発展させていくことでより安定した経営を期待します。そのためにも、通年で対応できる体制を構築できるよう、雇用面の充実について提言しました。

今後の展望については、ヨーロッパではスキー場が温暖化の影響を受けている一方で、東南アジアではスキーの需要が高まっており、今後日本の北海道・東北地方のスキー場は益々注目を浴びることも十分に考えられます。夏油高原のポテンシャルを活かし、リゾート化を推進するためにも、宿泊施設の充実に向け早急に具体的計画の検討について提言しました。

最後に、運営事業者の運営に関する創意工夫及び自助努力については高く評価すると共に、今後の課題として、財務状況の改善に向けた短期計画の策定と、リゾート形成に向けた宿泊施設の充実及びグリーンシーズンの収益向上、国有林野取得に向けた検討について、市と連携し取り組んでいくことを総括意見としました。

以上、評価委員会の事業内容の評価の結果を御報告します。

2 評価について

評価については、「夏油高原スキー場運営事業者選定委員会」を開催した際の選定基準とした項目に基づき、重点項目となる「運営状況」、「財務状況」について評価を行いました。また、自由記述式として、「夏油高原スキー場運営9年目の振り返りについて」、「夏油高原スキー場の今後の展望について」に関し、委員から提言をいただきました。

R4 審査基準の置き方	視 点
■ 1. 運営状況 (計画性・企画力・展開力等)	① 社会情勢や顧客のニーズ等、施設を取り巻く環境を把握し、計画的に事業運営を行っているか。
	② 施設の維持管理は適切に行われているか。
	③ グリーンシーズンの活用策が効果的に実施されているか。
	④ 運営に対する創意工夫と自助努力がなされているか。
	⑤ 市や関係団体等と連携して事業運営を行っているか。
■ 2. 財務状況 (損益・安全性・計画性等)	① 当期純利益が計上され、損益状況は良好であるか。
	② 不良資産がなく、純資産が確保されており、財政状態が健全であるか。
	③ 短期・長期の損益計画が策定されており、予算・実績対比分析がなされているか。
■ 3. 2021-22 シーズン（9年目）の振り返り	運営事業者が取り組んできた事業等に対する意見や提言
■ 4. 今後の展望について	今後の構想に対する意見や提言
■ 5. その他	その他
■ 6. 総括意見	まとめ

【参考】運営事業者選定委員会 選定基準

No	公募要領のポイント	審査基準の置き方	視 点
1	次期運営事業者の義務 契約期間、スキー場の運営を誠実に 行う義務	契約期間、事業を誠実に行う計画、 体制、運営となっているか	総合性、経営基盤、将来性、 実績、企業理念
2	契約期間 5年以上10年以内での提案	継続性を有した計画となっているか 実現可能性が高い計画か	継続性、実現性、収益性、 企画力
3	運営に関する自立性 市は赤字補填を行わない	運営に対する収支見通しが適正か 運営に対する創意工夫と自助努力が なされているか	経営基盤、自立性（自助努力）、 収益性、業務遂行能力
4	適正な管理のもとで施設の改修・ 更新に対応	適正な維持管理計画となっているか 真に必要な時期に必要な手立てを講 じているか	実績、専門性、安全性、リ スクマネジメント
5	運営に関する市への報告と協議 市への収支状況の報告&公開	収支報告や公開に協力しているか 市との協議を行う体制や計画となっ ているか	企業姿勢、公益性、
6	利用者増への取り組み	具体的かつ実現性のある取り組みが 提案されているか 自助努力のもとで取り組まれる内容 か	企画力、創意工夫、専門 性、独自性
7	関係団体との連携	連携・協調を進める体制や計画とな っているか グリーンシーズンの活用策が具体的 に示されているか	協調性、社会貢献、展開 力、継続性
8	市民や利用者への配慮した運営に 努めること	料金の見直しはどうか 市民や利用者への取り組みが具体的 かつ効果的か	企画力、独自性、事業実 績、 利用者視点
9	地元の事業者や人材の活用	地元との連携を進める体制や計画と なっているか 採用等において地元人材の活用が配 慮されているか	企業姿勢、地域貢献、継続 性

3 評価結果について

各項目に関する評価結果は以下の通りです。なお、評価にあたっては、市の内部評価や運営事業者による自己評価をもとに行いました。

[運営事業者の評価]

■ 1. 運営状況（計画性および効率性）

※チェックは○・△・×で記載

チェック項目	事業者	市担当	委員会
① 社会情勢や顧客のニーズ等、施設を取り巻く環境を把握し、計画的に事業運営を行っているか。	○	○	○
② 施設の維持管理は適切に行われているか。	△	○	△
③ グリーンシーズンの活用策が効果的に実施されているか。	△	○	○
④ 運営に対する創意工夫と自助努力がなされているか。	○	○	○
⑤ 市や関係団体等と連携して事業運営を行っているか。	○	○	○

運営事業者の自己評価

評価の理由	<input type="checkbox"/> A. 適切	<input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね適切	<input type="checkbox"/> C. 一部見直し	<input type="checkbox"/> D. 要改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・夏油高原の取り巻く環境を見定めながら、常に最善策を講じて運営している。また、これからの将来についても様々な構想があり、マーケティングを駆使しながら理想の施設づくりを進めている。 ・定期的に施設に不具合が発生するが、その都度全力を挙げて対処している。 ・グリーンシーズンのコンテンツ拡大の必要性を認識しており、日々活用策を模索している。 			

市担当部課の点検評価

評価の理由	<input checked="" type="checkbox"/> A. 適切	<input type="checkbox"/> B. 概ね適切	<input type="checkbox"/> C. 一部見直し	<input type="checkbox"/> D. 要改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・前シーズンに続きコロナ禍の影響を受けながらも、ツリーランエリアのPRやWEB上での情報発信等、国内市場に向けた効果的な取り組みにより入込を取り戻しており、冬季の入込は前シーズンと比較して約2万人増の約10万6千人となっている。 ・施設の老朽化により想定外の修繕及び更新等を余儀なくされているが、市と密に連絡を取り合い適切に対処している。施設管理部に新規採用し人材の育成に努めている。 ・キャンプ営業の充実に加え、テントサウナを取り入れる等、屋外アクティビティのニーズを捉え安定した集客につながっている。 ・紅葉まつりや登山ガイド、GETOカップ等、関係団体と連携して事業を行っている。市民の声に応え、より幅広く地域と連携した事業の展開を期待したい。 			

運営評価委員会の評価

A. 適切
 B. 概ね適切
 C. 一部見直し
 D. 要改善

運営評価委員の意見

- ・コロナ禍の影響はあるが、継続して取り組んできたブランディングやアクティビティの展開等によりウインターシーズン、グリーンシーズンとも比較的安定した運営を行っている。
- ・設備の維持管理について、現状に満足することなく、突発的な事故等のない安心できる施設を心がけ、市とより密に連携をとり適切に実施していただきたい。
- ・グリーンシーズンの活用策は効果的に実施されている。収益を増やしていけるよう更なる充実に期待したい。
- ・現状の宿泊需要に対し設備が不足している。宿泊設備の充実にについて、早急に具体化して計画的に検討していただきたい。

■ 2. 財務状況（経営の持続可能性）

※チェックは○・△・×で記載

チェック項目		事業者	市担当	委員会
①	当期純利益が計上され、損益状況は良好であるか。	○	○	△
②	不良資産がなく、純資産が確保されており、財政状態が健全であるか。	△	△	△
③	短期・長期の損益計画が策定されており、予算・実績対比分析がなされているか。	△	△	△
運営事業者の自己評価				
評価の理由	<input type="checkbox"/> A. 適切 <input type="checkbox"/> B. 概ね適切 <input checked="" type="checkbox"/> C. 一部見直し <input type="checkbox"/> D. 要改善			
	<ul style="list-style-type: none"> ・一時期に比べ財務状態および資金繰りは安定してきているものの、天候その他の突発的な要因に余裕をもって対応出来る財務状況とまでは言えない。 ・原材料費の高騰により、中長期的な損益計画が立てづらくなっている。 			
市担当部課の点検評価				
評価の理由	<input type="checkbox"/> A. 適切 <input checked="" type="checkbox"/> B. 概ね適切 <input type="checkbox"/> C. 一部見直し <input type="checkbox"/> D. 要改善			
	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿誘致やインバウンドの減少、老朽化施設の修繕対応や価格高騰の影響がみられるが、当期純利益は計上できている。 ・十分ではないが、コロナ禍においても改善傾向にあり、評価できる。 ・10年目の収支計画は、インバウンドの再開や価格高騰等を見込、概ね妥当な計画となっている。長期的な視点で今後の事業計画に沿った具体的に計画を練る必要がある。ゲレンデ整備車等の動産に係る更新計画にも留意されたい。 			
運営評価委員会の評価				
運営評価委員の意見	<input type="checkbox"/> A. 適切 <input type="checkbox"/> B. 概ね適切 <input checked="" type="checkbox"/> C. 一部見直し <input type="checkbox"/> D. 要改善			
	<ul style="list-style-type: none"> ・純利益こそあるが、借り入れの状況等を勘案すると良好とまでは言えない。 ・関連会社を含めた連結決算資料を基に、グループ全体の財務状況が把握できるように努められたい。 ・短期・長期の損益計画について、より具体的に作成する必要がある。 			

■ 3. 2021-22 シーズン（9年目）の振り返り

<p>運営事業者 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ渦での運営となり、インバウンドは壊滅となったものの、安定した収益を確保できた。 ・冬季営業のブランディングによる認知度向上や、グリーンシーズンの堅調な収益が要因として挙げられる。 ・施設の老朽化への対応や、人材確保など課題も多いが、社員全員が夏油の山への可能性を認識して主体的に取り組んできている。組織として強みを増してきていると感じている。
<p>市担当部課 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前シーズンに引き続きコロナ禍の影響を受けつつも、入込を取り戻している。積み重ねてきた「豪雪」のブランディングや「グローアップツリーランエリア」といった独自のコンセプトも夏油高原スキー場の新たなブランドとして認知されてきている。 ・毎日のSNS更新やWEB上での情報発信等、ユーザーの利便性向上にも努めており、成果につながっている。 ・これまで課題としてきたグリーンシーズンについても話題性のあるアクティビティを取り入れるなど創意工夫がみられ、安定した集客を得ており、評価できる。 ・施設及び設備の老朽化も進んでおり、計画的な更新に加え、突発的な設備の修繕も多発している。安全な運営のため、引き続き施設の点検及びメンテナンスにも尽力いただきたい。
<p>評価委員の 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間の積み重ねにより、事業の基盤が固まってきたように見受けられる。 ・インバウンドの取り込みや、関連会社との連携によるグリーンシーズンの活性化等、柱となる事業については継続し、さらに発展させていくことでより安定した経営を期待したい。 ・通年で対応が出来るよう正社員を充実させていただきたい。 ・ウインターシーズンのスタッフの運営に十分な人数を確保出来るよう、農業者との連携などを検討いただきたい。

■ 4. 今後の展望について

<p>運営事業者の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド復活の需要を取りこぼさないよう積極的な投資と営業活動を行いたい。第1ゴンドラ山頂駅舎屋上の利活用や、宿泊施設の増設、スキーセンタードーム内のBAR設置などハード面の整備も行っていきたい。ヘリコプターガイドツアーの案件も出てきており、国際リゾート化へ向けて実現を模索していきたい。 ・各地のツリーランエリアで人気のあるリゾートを視察し、夏油の改善課題を認識している。 ・そこでは、樹木の間隔が整備されていてとても滑りやすく危険が少なく感じた。現状夏油高原では国有林のため伐採は行っておらず、間隔が狭く楽しめない場所が多い。行政による国有地払い下げを期待し、滑走環境の改善を急ぎたい。また、それに伴う借地権設定によるスキー場周辺に分譲と宿泊施設誘致にも取り組みたい。
<p>市担当部課の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナのインバウンド再開に対し、的確に需要を捉えた取り組みを期待する。 ・市においては夏油高原スキー場の将来構想及び施設の維持管理計画を策定したところである。通年滞在型のリゾート化を目指し、グリーンシーズンの充実や地域や関係団体との連携事業の活性化に期待したい。また、国有林野の取得に向けた検討、施設の維持管理及び改修等について、密に連携し進めたい。
<p>評価委員の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパではスキー場が温暖化の影響を受けている一方で、東南アジアではスキーへの需要は高まっている。国内でも温暖化が進んでおり、今後北海道・東北のスキー場が益々注目を浴びることも十分に考えられる。夏油温泉のポテンシャルを活かし、リゾート化を推進していくためにも宿泊施設を充実が必要である。 ・長期的にリゾートホテルのような計画の検討をするのも良いが、短期で実現可能な方法についても検討いただきたい。 ・グリーンシーズンの収益を増やしていくため、オリジナル商品や新サービスの開発等、積極的な取り組みに期待する。

■ 5. その他

評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none">・財務状況の評価について、関連会社と連結した決算状況の確認が必要である。・トレーラーハウス等を活用したホテルは短期事業ではあるが、安価で素早い稼働が可能なため、検討してはどうか。・リゾートホテルの開発にはそれなりの資金が必要である。投資、ファンドやコンドミニアムなど手法について検討し、中長期計画に含めるべきである。・学校のスキー教室が減っている理由の一つに、道具が高額であることがある。子どもたちのスキーを始めるきっかけづくりとして中古スキーの販売会などを検討いただきたい。・地元には農家が多いため、相互の雇用につなげられるような取り組みをしてはどうか。
---------	--

■ 6. 総括意見

評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍の影響を受ける中で、継続してきた取り組みが成果につながっており、運営に関する創意工夫と自助努力については高く評価する。・財務状況においては改善に向け、収支・損益・資産等について、3カ年程度の短期の具体的な計画を策定し運用されたい。・次期10年間の運営が決定し、リゾート化を見据えて取り組んでいく上で、宿泊施設の充実と、より一層のグリーンシーズンの収益向上に取り組んでいただきたい。・市と密に連携し、適切な施設の維持管理と国有林野取得に向けた取り組みについて努力いただきたい。
---------	---

資 料 編

北上市夏油高原スキー場運営評価委員会要綱

(設置)

第1 夏油高原スキー場の健全な運営を推進するため、夏油高原スキー場運営評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 夏油高原スキー場の運営状況等の評価及び検証に関すること。
- (2) その他市長が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3 委員会は、委員5人以内をもって組織し、知識経験を有する者その他適当と認める者のうちから市長が委嘱又は任命する。

(任期)

第4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

- 2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指定する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6 委員会の会議は、市長が招集する。

- 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

(意見等の聴取)

第7 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見、事情等を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第8 委員会の庶務は、商工部商業観光課において処理する。

(補則)

第9 この告示に定めるもののほか必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

北上市夏油高原スキー場運営評価委員会 委員名簿

(任期：令和5年2月1日から令和7年1月31日まで)

No.	役職	区 分	氏 名	所属・職名等
1	委員長	観光関係専門分野	三 堀 裕 雄	旅行ライター&エディター
2	委員	経営関係専門分野	堤 研 一	公認会計士
3	委員	スキー関係専門分野	山 本 進	一般財団法人 岩手県スキー連盟
4	委員	利用者代表	高 橋 駿 介	北上スキーをこよなく愛する会
5	委員	観光関係専門分野	八重樫 守民	一般社団法人 北上観光コンベンション協会

【夏油高原スキー場 これまでの経過】

平成5年12月 夏油高原スキー場オープン

平成14年11月11日 夏油高原スキー場施設の使用貸借に関する仮契約書締結

平成14年12月5日 財産の取得について議決（土地・建物・物品）

○提案理由（議事録抜粋）

取得する財産は、夏油高原開発㈱のスキー場施設で10月臨時会において議決した国際興業㈱からの負担付寄付（310,0003,973円）により取得する。スキー場施設の看板・自動車・圧雪車・除雪車・工具器具備品等を除く、新夏油橋駐車場の土地（9筆）・スキーセンターほか12棟の建物・スキーコースのナイター設備等の構築物・自家発電機等の機械装備・リフト搬器等の車両運搬具を含めた一切のスキー場施設の寄付条件を履行するため取得する。

◎議決の結果

起立多数で原案のとおり可決。

平成14年12月5日 財産の無償貸付について議決（土地・建物・物品）

○提案理由（議事録抜粋）

国際興業㈱の負担付寄付を履行し、夏油高原㈱に貸し付けようとするもの。夏油高原スキー場が継続利用されることで、雇用確保や地域振興等に資することから無償で貸付ける。貸付する財産は先に議決された全ての財産。所有権移転については売買に関する仮契約で12月中旬を目途に売買代金の支払い等の実行後に行う。使用貸借に関する仮契約では、売買契約が履行されることを条件として効力を生ずるとしていることから、所有権移転後に貸付実行となるもの。

◎議決の結果

起立多数で原案のとおり可決。

平成14年12月5日 夏油高原スキー場の運営に関する覚書締結（市・夏油高原開発㈱）

平成14年12月5日 森林空間総合利用整備事業の推進に関する協定書締結（県・市・夏油高原開発㈱）

平成17年9月 夏油高原温泉開業

平成21年10月 夏油高原観光活性化策の調査研究報告書提出（三菱総合研究所より）

平成22年7月 夏油高原活性化タスクフォース設立

平成23年3月11日 東日本大震災・被害により営業休止

平成23年6月24日 夏油スキー場の国有林使用料を市が負担すること決定

平成23年8月20日 きたかみ夏油高原ヒルクライムを開催

平成23年10月1日 営業再開

平成23年12月12日 シーズン開始

平成23年 スキーの提供会を開催

平成24年 各種トレッキングを開催

平成25年3月4日 スキー場運営について報告

平成25年3月29日 加森観光株式会社及び夏油高原開発株式会社より夏油高原スキー場運営から撤退の申し出

平成25年5月31日 加森観光株式会社及び夏油高原開発株式会社 契約解除

平成25年5月31日 夏油高原スキー場施設における動産を市が取得

平成25年6月3日 運営事業者公募開始

平成25年6月17日 夏油高原スキー場雄事業者選定委員会の選定結果により、株式会社クロスプロジェクトグループを運営事業者として選定

平成25年7月1日 夏油高原スキー場施設の使用貸借契約に基づき、株式会社クロスプロジェクトグループが運営開始

平成25年8月1日 株式会社北日本リゾートが株式会社クロスプロジェクトグループの100%子会社としてスキー場の運営を開始

平成25年11月30日 夏油高原スキー場2013～2014シーズン プレオープン

平成25年12月6日 安全祈願祭

平成25年12月7日 夏油高原スキー場2013～2014シーズン オープン

平成26年5月11日 2013～2014シーズン 終了

平成26年7月26日 グリーンシーズン営業開始

平成26年8月20日 臨時議会にて圧雪車のリース契約について承認

平成26年11月10日 夏油高原スキー場運営評価委員会 開催

平成26年12月6日 夏油高原スキー場2014～2015シーズン オープン

平成27年8月1日 グリーンシーズン営業開始

平成27年12月5日 スキー場2015～2016シーズン オープン

平成28年1月28日 平成27年度夏油高原スキー場運営評価委員会

平成28年4月24日 スキー場2015～2016シーズン終了

平成28年6月27日 施設の大規模改修及び更新に関する包括協定を締結

平成28年7月16日 グリーンシーズン営業開始

平成28年12月3日 スキー場2016～2017シーズン オープン

平成28年12月20日 平成28年度第1回夏油高原スキー場運営評価委員会

平成29年2月22日 平成28年度第2回夏油高原スキー場運営評価委員会

平成29年5月7日 スキー場2016～2017シーズン終了

平成29年7月15日 グリーンシーズン営業開始

平成29年11月23日 スキー場2017～2018シーズン プレオープン

平成29年12月2日 スキー場2017～2018シーズン オープン

平成30年2月3日 第1ゴンドラ復旧、運行開始

平成30年2月21日 平成29年度夏油高原スキー場運営評価委員会

平成30年5月6日 2017-18シーズン終了

平成30年7月15日 グリーンシーズン営業開始

平成30年12月9日 2018-19ウインターシーズン営業開始

平成31年3月4日 平成30年度夏油高原スキー場運営評価委員会

令和元年5月6日 2018-19ウインターシリーズ営業終了

令和元年7月13日 グリーンシーズン営業開始

令和元年11月21日 2019-20ウインターシーズン プレオープン

令和2年4月24日 2019-20ウインターシーズン終了

令和2年7月3日 グリーンシーズン、キャンプ場営業開始

令和2年12月16日 2020-21ウインターシーズン営業開始

令和3年2月26日 令和2年度夏油高原スキー場運営評価委員会

令和3年5月5日 2020-21 ウィンターシリーズ営業終了
令和3年6月30日 株式会社北日本リゾートから夏油高原スキー場管理運営事業継続届出書提出
令和3年7月2日 グリーンシーズン営業開始
令和3年11月27日 2021-22 ウィンターシーズン プレオープン
令和4年3月28日 令和3年度夏油高原スキー場運営評価委員会
令和4年5月8日 2021-22 ウィンターシリーズ営業終了
令和4年6月1日 夏油高原スキー場の将来構想策定（市）
令和5年6月18日 グリーンシーズン営業開始
令和5年6月23日 事業者選考委員会開催
令和5年7月11日 事業者選考委員会の結果を受け、株式会社北日本リゾートを次期運営期間に係る契約候補者として特定
令和5年8月8日 夏油高原スキー場施設の使用貸借契約締結
令和5年9月1日 北上市議会定例会にて財産（土地・建物・物品）の無償貸付について議決
令和5年10月23日 グリーンシーズン営業終了
令和5年11月30日 次期運営期間に係る夏油高原スキー場施設の維持管理計画策定（市）
令和5年11月30日 次期運営期間に係る夏油高原スキー場施設の大規模改修及び更新に関する包括協定締結
令和5年12月9日 2022-2023 ウィンターシーズン営業開始
令和5年3月29日 令和4年度夏油高原スキー場運営評価委員会
